



ミズノ 沖サす 島つ夜、
どを患った神奈川県の元建
設労働者や遺族計87人が、
危険性を認識しながら対策

巷論

私の仕事は旅芸人みたいなものだ。4月には先月ご紹介した太陽節で北朝鮮に行き、翌週は東ティモールの国際会議に出席した。グスマン首相とも会った。帰国後2週間ほど日本にいたが、またすぐに出張だ。

20日にドミニカ共和国では大統領選挙があり、与党候補のダニエル・メデナ氏が当選した。私は駐日大使館の顧問なので、勝利集会に出席すべくサントドミンゴに来るように言われていた。

で、ついでにキューバのハバナに行った。ドミニカからは直行便で約2時間弱だ。

チェ・ゲバラを知らない人はいないだろう。キューバ革命の指導者の一人だ。キューバに向かったのは、そのゲバラの息子

チェ・ゲバラの遺産 キューバ革命の指導者

カミールに会うように、駐日キューバ大使館から依頼されていたからだ。

「ご存じの方もいるだろうが、実はチェ・ゲバラは1959年に来日している。広島原爆ドームをみたゲバラは、「アメリ

カにこんな目に遭わされておきながら、あなたたちはなおアメリカの言いなりになるのか」と言っただけと言われている。

息子のカミールは、チェ・ゲバラ研究所で新規のプロジェクトを担当している。私は、研究

所の前にあるチェ・ゲバラ第二邸宅で、カミールに会った。

気さくな人柄で、目元はお父さんそっくりだ。今年50歳。チェ・ゲバラは異国ポリビアにて39歳で死んだのだから、父親よりも10年以上も長生きしている

計算になる。

カミールから、「父が訪日したときに自分で撮った写真がある。広島原爆ドームの写真1点だけは、すでに欧州の写真展で展示したが、それ以外は未公開だ。それを使って、日本で写真展を実現してほしい。われわれが知らないチェ・ゲバラの写真やビデオが日本にあるはずだ。それを探るのがイタルの役割だ」と言われた。

写真展の収益は病院建築などの社会貢献に使われるという。この志こそチェ・ゲバラの遺産なのだろう。(石井 至)

いしい・いたる 石井兄弟
社長、東京都在住

巡査部長ひき逃げの疑い

750円
めた訴訟
浜地裁
子裁判官
読)は
た指導